クイックセットアップガイド

Dominion® KX III

このたびは、エンタープライズ向けデジタルKVM Dominion KX IIIをご購入いただきまして、誠にありがとうございます。
このクイックセットアップガイドでは、KX IIIの初期設定についてご説明いたします。詳細につきましては、ラリタンWebサイトのサポートページにで、オンラインヘルプをご参照ください。 **https://www.raritan.com/jp/support/product/dominion-kx-iii**

・内容物一覧

KX III本体

KX IIIクイックセットアップガイド（本紙）

ラックマウントキット

AC電源コード （2本）

デスクトップ設置用ゴム足（4つ）

アプリケーションノート

製品保証書

- 管理者ガイドに記載されたKX IIIの動作温度範囲から逸脱しない環境でご利用ください。
- 適切なエアフロー環境を確保してください。.
- 不均一な機械的負荷を避けるために、KX IIIをラックに慎重に取り付けてください。
- 過負荷にならないように、適切に電源を接続してください。
- リモート接続の安定性を確保するために、KX IIIに関わる全ての機器の接地を適切に行ってください。

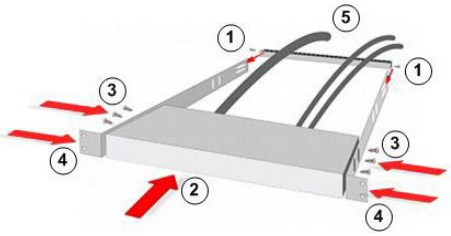
ラックマウント

KX IIIは、19インチラックの1Uスペースに取り付け可能です。

※ 本紙の図は例であり、購入された製品を正確に示していない場合がありますので、取り付けにあたっては注意してください。

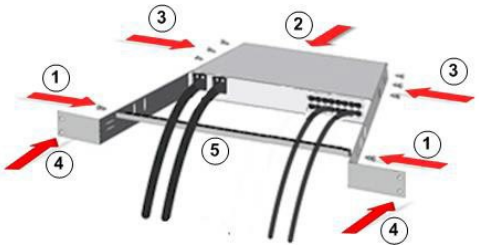
ラック前面への取り付け

1. 付属の2本のネジを使用して側面ブラケットの後端にケーブルサポートバーを固定します。
2. KX IIIを、背面パネルがケーブルサポートバーに面した状態で側面ブラケットの間にはめ込み、その前面パネルを側面ブラケットの「耳」に揃えます。
3. KX IIIの両側を添付のネジ（片側3本ずつ）で固定します。
4. 専用のネジ、ボルト、ケージナットなどで側面ブラケットの耳をラックの前面レールに固定します。
5. KX IIIの背面に接続するケーブルは、ケーブルサポートバーの上に掛けます。



ラック背面への取り付け

1. 付属の2本のネジを使用して側面ブラケットの前端（側面ブラケットの「耳」の近く）にケーブルサポートバーを固定します。
2. KX IIIを、背面パネルがケーブルサポートバーに面した状態で側面ブラケットの間にはめ込み、その前面パネルを側面ブラケットの後端に揃えます。
3. KX IIIの両側を添付のネジ（片側3本ずつ）で固定します。
4. 専用のネジ、ボルト、ケージナットなどで側面ブラケットの耳をラックの前面レールに固定します。
5. KX IIIの背面に接続するケーブルは、ケーブルサポートバーの上に掛けます。



Step 1: Firewall設定

－TCP Port 5000

TCPポート5000でのネットワークとファイアウォールの通信を許可すると、KX IIIへのリモートアクセスが有効になります。

または、別のTCPポートを使用するようKX IIIを設定すると、そのポートでネットワークとファイアウォールの通信ができるようになります。

－TCP Port 443

TCPポート443（標準HTTPS）へのアクセスを許可すると、Webブラウザ経由でKX IIIにアクセスできるようになります。

－TCP Port 80

TCP ポート80（標準HTTP）へのアクセスを許可すると、HTTP要求が自動的にHTTPSにリダイレクトされます。

Step 2: KVMのターゲットサーバー設定

マウス設定

ターゲットサーバーのマウス設定は、特別な場合を除き、Absolute Mouse（ずれないマウス）の利用を推奨します。

このモードでは、ターゲットマウスが異なる速度に設定されている場合でも、絶対座標を使用してクライアントカーソルとターゲットカーソルの同期を維持します。 このモードは、仮想メディア対応CIMでサポートされます。

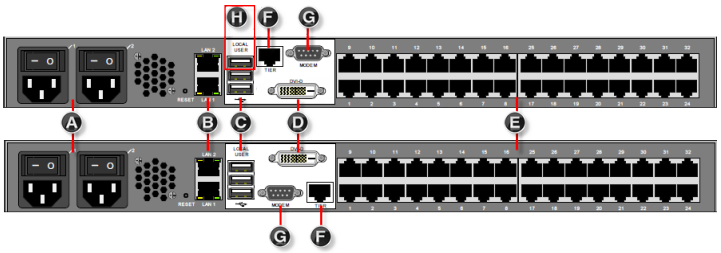
- Absolute Mouseは、D2CIM-DVUSB, D2CIM-DVUSB-DVI, D2CIM-DVUSB-HDMI, D2CIM-DVUSB-DP, D2CIM-VUSB-USBC, D2CIM-VUSB で利用できます。

ターゲットサーバーのビデオ解像度

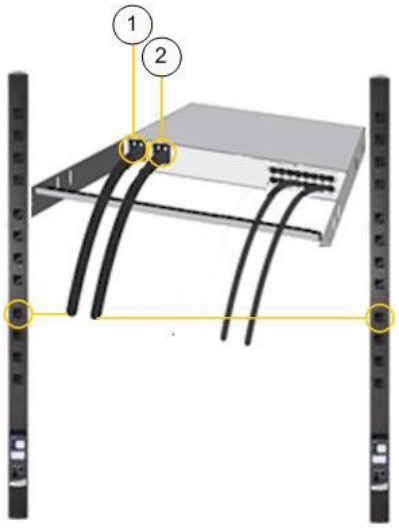
サポート対象の解像度は、オンラインヘルプを参照してください。(**https://help.raritan.com/kx-iii/v3.8.0/en/#32872.htm**)

Step 3: 機器の接続

※型番によって外観は異なります。



A: AC電源



1. KX IIIに添付されている電源コードを使用します。冗長性を保つ場合は、2本接続します。

B: ネットワークポート

Ethernetケーブルを、「LAN1」のラベルの付いたネットワークポートから、ネットワーク機器に接続します。

Failover mode または Isolation mode（分離モード）機能を有効にするためには、Ethernetケーブルを「LAN2」のラベルの付いたネットワークポートから、ネットワーク機器に接続します。

C: ローカルユーザーポート

▸ **キーボードとマウスを接続:**

- USBキーボードおよびマウスを、KX IIIの背面のそれぞれのローカルユーザーポートに接続します。

ラック前での管理およびターゲットデバイスアクセスのためにKX IIIローカルユーザーポートを使用できます。ローカルユーザーポートは、初期セットアップの際に必要ですが、それ以降の使用は省略できます。また、Dominion シリアルアクセスモジュール(DSAM)を使用する場合、ローカルユーザーポートに接続可能です。

D: ローカルDVI-Dポート

シングルリンクのDVIケーブルは、DVIモニターまたはキーボードトレイ（T1700-LED-J／T1900-LED-J）利用時に接続します。

E. KX IIIへのターゲットサーバーの接続

1. CIMの各プラグをターゲットサーバーに接続します。

2. Cat5/5e/6ケーブルで、CIMとKX IIIのサーバーポートを接続します。

F. カスケード接続（オプション）

「**Configuring and Enabling Tiering**」をご参照ください。

G: モデムポート（オプション）

ラリタン・ジャパンは、KX III対応モデムである SierraWireless モデムを販売しておりません。

H: Dominion シリアルアクセスモジュール（オプション）

KX IIIとDominionシリアルアクセスモジュール（DSAM）を接続すると、スイッチやルーター等のシリアルデバイスへアクセスできます。

1. DSAMユニットのUSBケーブルをKX IIIのUSBポートに接続します。最大で2台までのDSAMを接続できますが、USBデバイスの接続数が限られているので、接続構成にはご注意ください。
2. シリアルデバイスとDSAMを接続します。

Step 4: KX IIIの設定

以下の手順において、ローカルコンソールで初期パスワードを変更し、KX IIIにIPアドレスを割り当てます。その後の全ての操作は、ローカルコンソール、もしくはKX IIIにWebブラウザ経由でアクセスして行います。

初回ログイン時のパスワード変更

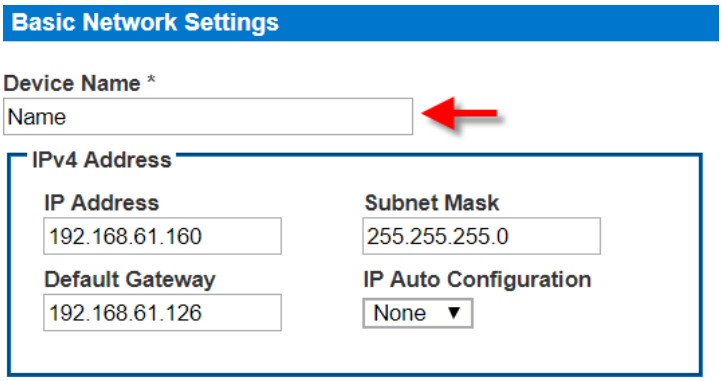
KX IIIの工場出荷時の設定は、以下になります。初回ログイン時に、パスワードをStrong password (複雑なパスワード) へ変更します。

- ユーザー名= admin
- パスワード= raritan
- IPアドレス = 192.168.0.192

重要: 管理者権限を持つバックアップユーザーを作成し、その情報を厳重に管理することによって、管理者パスワード紛失によるトラブルを防ぐ事ができます。

KX IIIのデバイスの設定

KX IIIリモートクライアントで Device Settings > Network（デバイス設定 > ネットワーク） ページを開きます。



- 任意のデバイス名を指定します。最大32文字の英数字と一部の特殊文字を組み合わせて使用できます。スペースは利用不可です。
- IPアドレスとDefault Gateway, Subnet Maskを設定します。

Failover もしくは Isolation Modeの選択

Failover Modeの設定 (ページ 3)

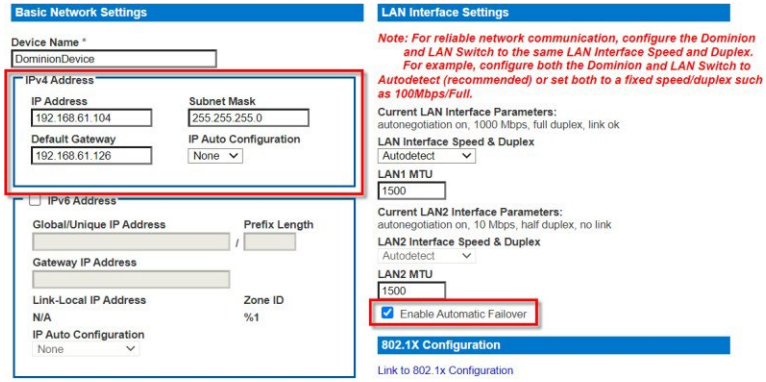
Isolation Modeの設定 (ページ 4)

Failover Mode の設定

LAN1とLAN2は、同じIPアドレスを共有し、自動フェイルオーバーをサポートします。LAN1がプライマリポートとして動作し、LAN1が利用できなくなると、LAN2がアクティブとなります。

1. Device Settings > Network から Basic Network Settings を開きます。
2. IPv4 Address セクション内の IP Auto Configuration を「None」に設定します。
3. LAN Interface Settings セクションの「Enable Automatic Failover」にチェックを入れます。
4. Default Gateway を入力します。
5. IPv4 IP Address を入力します。(初期値:192.168.0.192)
6. IPv4 Subnet Mask を入力します。(初期値:255.255.255.0)

7. フェイルオーバー時、LAN1の設定はLAN2に適用されます。



8. 必要に応じて IPv6 Address セクションを設定します。
9. IP Auto Configuration を選択します。

   「None」が選択されている場合は以下の設定が必要です。

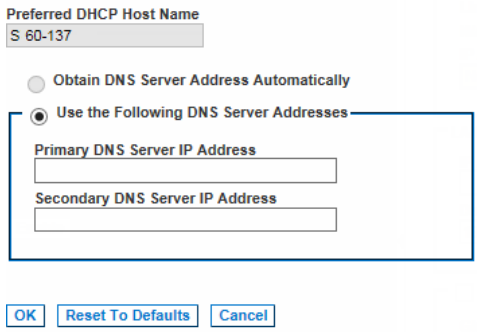
   - Global/Unique IP Address
   - Prefix Length
   - Gateway IP Address.

   Link-Local subnetの代わりに Global もしくは Unique IPv6 address を検索するためには「*Router Discovery*」を選択します。これにより、アドレスが自動で適用されます。なお、このセクションには、以下の読み取り専用の追加情報が表示されます。

   - Link-Local IP Address
   - Zone ID

10. "Use the Following DNS Server Addresses" を選択して、「Primary DNS Server IP Address」と「Secondary DNS Server IP Address」を入力します。

    注: Obtain DNS Server Address Automatically, Preferred DHCP Host Name は、DHCP環境でのみ利用可能です。

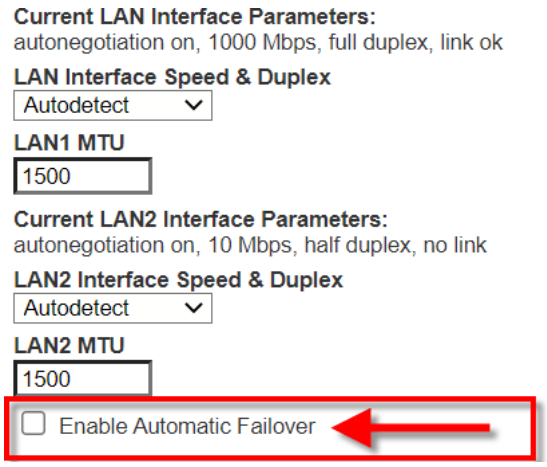


11. LAN 1/LAN 2 Interface のSpeed & Duplex、MTU を設定します。
    - MTUの設定範囲は 576 – 1500 です。
12. 「OK」をクリックして、Failover modeのネットワーク設定は完了です。

Isolation Mode の設定

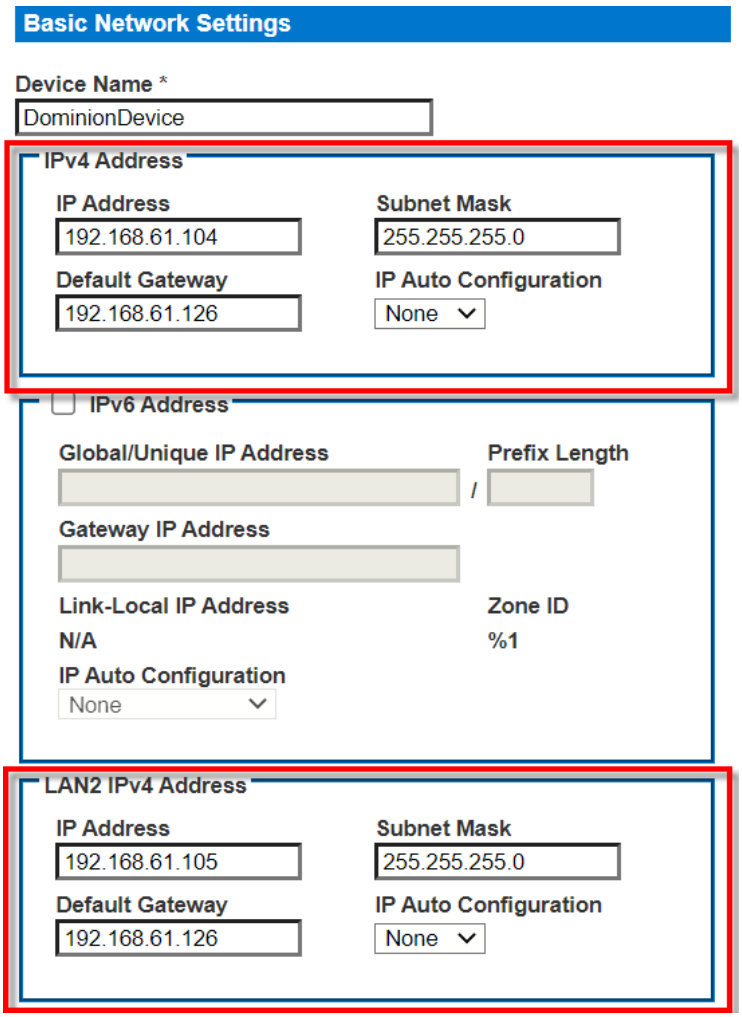
Isolation modeは、異なるIPアドレスを各LANポートに割り当ててアクセスします。なお、このモードでは、フェイルオーバー機能はサポートしません。

1. Device Settings > Network から Basic Network Settings を開きます。
2. IPv4 Address セクション内の IP Auto Configuration を「None」に設定します。
3. LAN Interface Settings セクションの「Enable Automatic Failover」にチェックが入っていない事を確認します。



4. Default Gateway を入力します。
5. IPv4 IP Address を入力します。
   (初期値:192.168.0.192)
6. IPv4 Subnet Mask を入力します。
   (初期値:255.255.255.0)
7. LAN2 IPv4 Address セクション内の IP Auto Configuration を「None」に設定します。
8. LAN2 IPv4 Address セクション内の IP Address を入力します。

9. LAN2 IPv4 の Subnet Mask と Default Gateway を入力します。



10. 必要に応じて IPv6 Address セクションを設定します。

11. IP Auto Configuration を選択します。

「None」が選択されている場合は以下の設定が必要です。

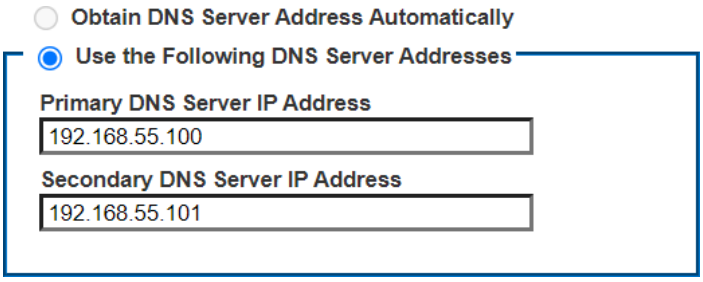
- Global/Unique IP Address
- Prefix Length
- Gateway IP Address.

Link-Local subnetの代わりに Global もしくは Unique IPv6 address を検索するためには「*Router Discovery*」を選択します。これにより、アドレスが自動で適用されます。なお、このセクションには、以下の読み取り専用の追加情報が表示されます。

- Link-Local IP Address
- Zone ID

- "Use the Following DNS Server Addresses" を選択して、「Primary DNS Server IP Address」と「Secondary DNS Server IP Address」を入力します。

注: Obtain DNS Server Address Automatically, Preferred DHCP Host Name は、DHCP環境でのみ利用可能です。



12. LAN 1/LAN 2 Interface のSpeed & Duplex、MTU を設定します。

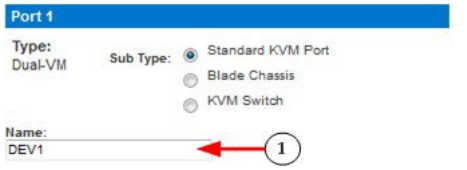
- MTUの設定範囲は 576 – 1500 です。

13. 「OK」をクリックして完了します。

KX III は、LAN1とLAN2のそれぞれからアクセスできます。

ターゲットサーバーの名称設定

全てのターゲットサーバーを接続し、Device Settings > Port Configuration から、名前を設定したいターゲットサーバーのポート名をクリックします。



- 名前は最大32文字の英数字と一部の特殊文字を利用して入力できます。

電源の自動検出設定

KX III は電源が二重化されており、両方の電源が使用されている場合は、それぞれのステータスが通知されます。また、初期状態で Power Supply Setup の「Powerln1 Auto Detect」と「Powerln2 Auto Detect」のチェックボックスがどちらも自動的にオンになります。1つの電源しか使用していない場合、使用されている電源のみの自動検出を有効にすることができます。KX IIIの前面の電源LEDは、1つだけ電源入力が接続されている場合、接続されていない電源のチェックボックスがオンになっていると赤色で点灯し、接続されていない電源のチェックボックスがオフになっていると青色で点灯します。

▸ **電源の自動検出設定は以下を参照してください。**

1. Device Settings > Power Supply Setup を選択します。
   - 電源1を使用している場合「PowerIn1 Auto Detect」を選択します。(背面左端が電源1)

   ※電源2の場合

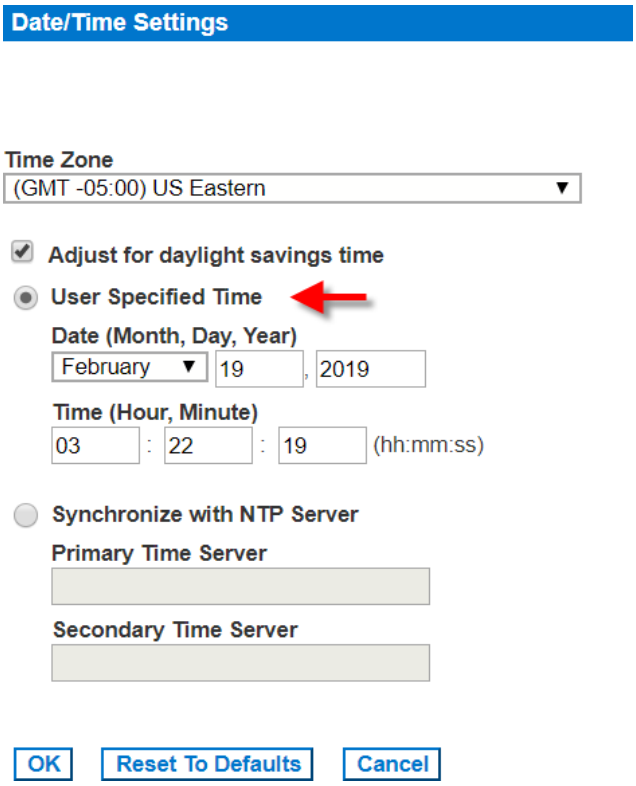
   - 電源2を使用している場合「PowerIn2 Auto Detect」を選択します。(背面左端から2つ目が電源2)
2. 「OK」をクリックします。

日付と時刻の設定

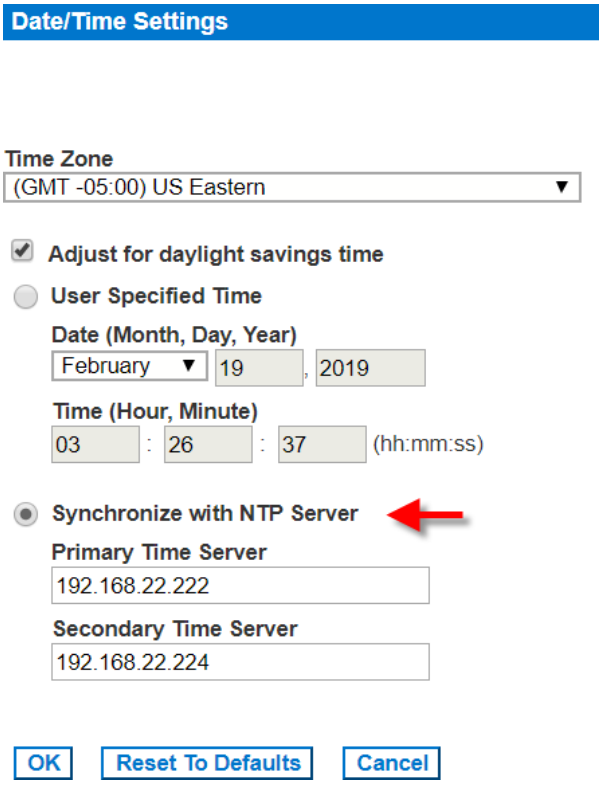
LDAPSを利用中の場合、日付と時刻の設定がSSL証明書の検証に影響します。日付と時刻を正しく設定すると、Audit log (監査ログ) に記録されるタイムスタンプは正しくなります。

設定方法は二つ用意されています。

- 手動設定



- NTP (Network Time Protocol) サーバーと同期



日付と時刻の設定手順

1. Device Settings > Date/Time を選択して Date/Time Settings ページを開きます。
2. Time Zone のドロップダウンリストから、適切なタイムゾーンを選択します。
3. 夏時間を利用する場合「Adjust fordaylight savings time" checkbox」にチェックを入れます（オプション）。
4. 日付と時刻の設定方法を選択します。
   - 手動設定 - ユーザーが日付と時刻設定をする場合には「User Specified Time」を選択して各値を入力します。(時刻は24時間制)
   - NTPサーバーと同期 - 日付と時刻をNTPサーバーと同期させる場合には「Synchronize with NTP Server」を選択します。

     「Synchronize with NTP Server」設定
     - 「Primary Time server」にIPアドレスかホストネームを入力します。
     - 「Secondary Time server」はオプションです。

注: DHCP環境では、NTPサーバーのIPアドレスも自動取得されます。もし、個別に設定したい場合、「Override DHCP」のチェックボックスを選択して、NTPサーバーのIPアドレスを入力します。

5. 「OK」をクリックします。

Step 5: リモートコンソールの起動

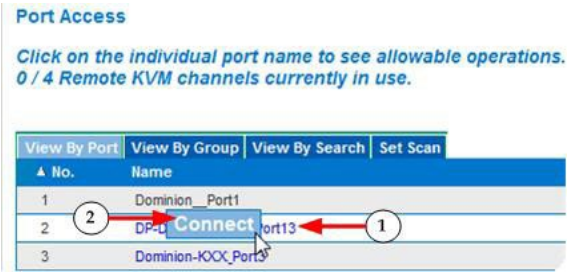
1. KX IIIでサポートされているWebブラウザを起動して、KX IIIのIPアドレスを入力すると、KVMクライアントが起動します。KVMクライアントの詳細は、オンラインヘルプを参照してください。
2. ユーザー名とパスワードを入力してログインします。
3. User agreementが表示された場合は同意します。
4. セキュリティ警告が表示された場合は同意します。

Tip: ユーザーステーションをご利用の場合はページ8、もしくはユーザーステーションのオンラインヘルプをご参照ください。

ターゲットサーバーへのリモートアクセスと制御

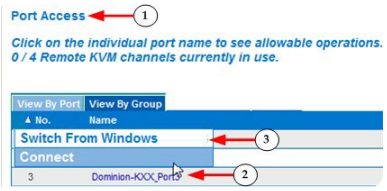
「Port Access」ページは、ポートの一覧とステータス、利用可否を表示します。

ターゲットサーバーへのアクセス



1. 「Port Access」ページで、ターゲットのポート名をクリックすると、 Port Action Menuが表示されます。
2. 「Connect」を選択すると、KVMウインドウが起動して、ターゲットへ接続します。

ターゲットサーバーの切替



1	ターゲットサーバーへ接続中に「Port Access」ページにアクセスします。
2	アクセスするターゲットのポート名をクリックするとPort Action menuが表示されます。
3	「Switch From (ポート名)」を選択すると、選択したターゲットサーバーが表示されます。

ターゲットサーバーの切断

ターゲットサーバーの 接続を終了する手順:

- 「Port Access」ページで終了するターゲットサーバーのポート名をクリックし、 Port Action menuから「disconnect」を選択します。

  もしくは、KVMクライアントのウインドウを閉じることによっても、接続を終了できます。

Step 6: キーボード言語の設定

必要に応じて、使用するキーボード言語を設定します（初期値は英語）。また、クライアントおよびターゲットサーバーのキーボード言語も揃える必要があります。

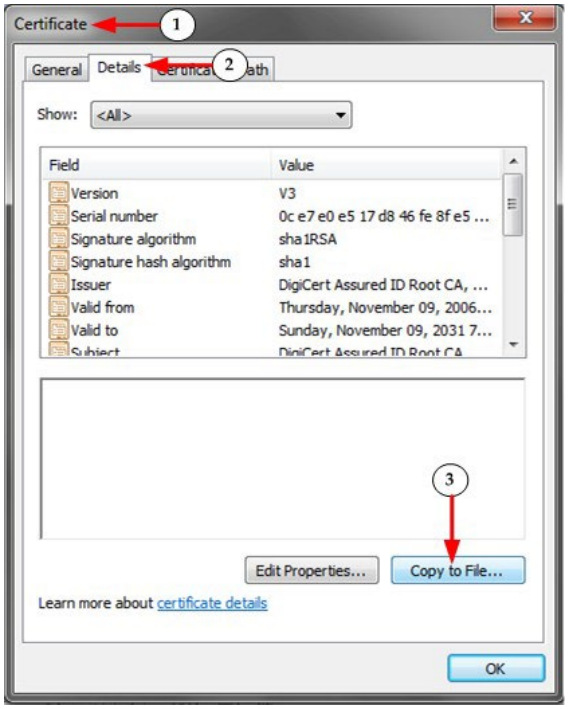
Step 7: SSL証明書の作成とインストール

ご利用になるKX IIIに、SSL証明書をインストールすることを推奨します。これにより、WebブラウザやJavaの警告メッセージを減らし、中間者攻撃 (Man In The Middle Attack) を防ぐことができます。また、今後リリースされるJavaやWebブラウザがKX IIIへのアクセスを中断する事を防ぎます。

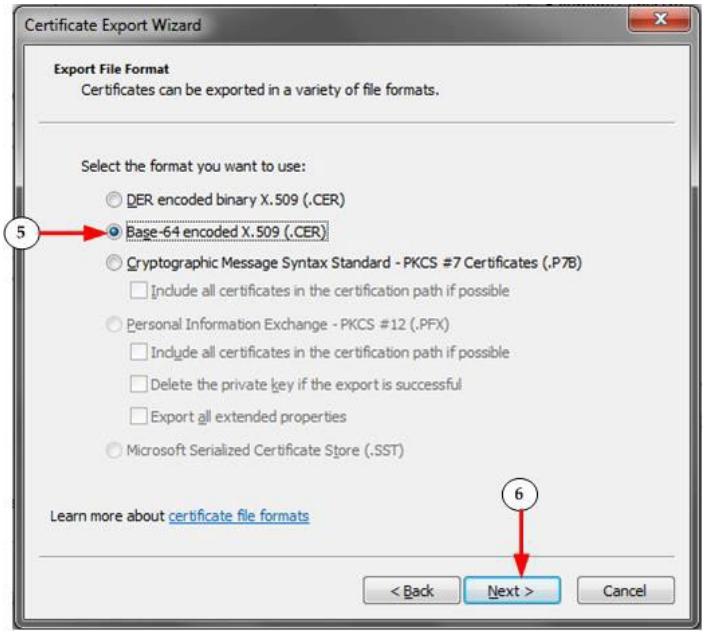
SSL証明書の作成とインストールの詳細は、オンラインヘルプをご参照ください。

バイナリ証明書をBase64エンコードしたDER証明書へ変換する

KX IIIは、Base64エンコードのDER形式もしくはPEM形式のSSL証明書をインストールできます。バイナリ形式の場合、KX IIIにインストールできませんので、変換してください。



1. Windowsクライアント上で、cer拡張子のバイナリファイルをダブルクリックして、証明書ダイアログを開きます。
2. 「Details (詳細)」タブをクリックします。
3. 「Copy to File... (ファイルにコピー)」をクリックします。
4. Certificate Export Wizard (証明書のエクスポート ウィザード) が開くので、「Next (次へ)」 をクリックします。
5. 「Base-64 encoded X.509」を選択します



6. 「Next (次へ)」をクリックしてファイル名を設定して保存します。

その後、新しく生成された証明書をKX IIIへインストールします。

Dominion ユーザーステーション

エンドユーザーは、KX IIIへWebブラウザを介したリモートアクセスのほか、スタンドアロン・アプライアンス製品であるDominion ユーザーステーション (DKX3-UST, DKX4-UST) を利用することが可能です。ユーザーステーションは、Raritanから購入することができます。

エンドユーザーは、1台のユーザーステーションから複数のKX III に接続されたターゲットサーバーにLAN/WANを介してアクセスすることができ、高速に切り替えることが可能です。

ユーザーステーションの詳細につきましては、ラリタン・ジャパンのWebサイトのサポートページに用意されたオンラインドキュメントをご参照ください。

[ラリタン・ジャパン サポートページ]

https://www.raritan.com/jp/support/product/dominion-kx-user-station

その他

KX IIIおよびRaritanの全ての製品については、RaritanのWebサイトをご参照ください。また、技術的なお問合せにつきましては、Raritanテクニカルサポートへお問合せください。日本のテクニカルサポートへの連絡につきましては、RaritanのサポートWeb (https://www.raritan.com/jp/support) をご参照ください。

Raritanの製品は、GPLおよびLGPLに基づいてライセンスされたコードを使用しています。オープンソースコードのコピーは、Raritanに要求することが可能です。詳細については、RaritanのWebサイトにあるオープンソースソフトウェアに関する記述をご参照ください。

［Open Source Software Statement］

http://www.raritan.com/about/legal-statements/open-source-software-statement/